

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2273200416		
法人名	株式会社アクタガワ		
事業所名	アクタガワ ハートフルホーム御門台 認知症対応型共同生活介護		
所在地	静岡県静岡市清水区七ツ新屋2丁目1番28号		
自己評価作成日	平成31年1月17日	評価結果市町村受理日	平成31年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigvoynoCd=2273200416-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェンツ		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 31 年 3 月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○御門台はデイサービス(1階)とグループホーム(2階)1ユニットの併設施設となっており、デイサービスでは様々なカルチャー教室が充実していてグループホームのお客さまと一緒に参加できる環境作りに取り組んでいます。
○グループホームでは温かい雰囲気の中でお客様と一緒に生活していくことを大切にしており、家事・炊事・洗濯といった日中の生活活動をお客様にも手伝っていただくことでご自宅に住んでいた時と同じように過ごしていただくことを心掛けています。又、地域の一員として地域のお祭りや防災訓練等にも参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「共に暮らし共に生きる」の事業所理念に基づき全職員が一つとなり利用者を支援している。新人の職員には1カ月間トレーナーが付き、接遇から介護技術全般のスキル研修の指導があり、独立後も個々に目標を記した手帳を携帯し、常に理念に沿った介護を行い、管理者は定期的に確認とアドバイス指導を行っている。寄り添った介護が利用者の穏やかな日常生活に現れていて、職員との対話や食事の笑顔が絶えない。併設デイサービスや近隣の方の馴染みの訪問がある。ボランティアの生け花や飾りつけ等が喜ばれている。家族の通院介助、外出等継続的な協力がある。職員も時間調整し近隣の散歩も日々実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	普段から目に入る事務所内に理念を掲示し会議時にスタッフ間で確認をしています。	理念は法人の小冊子に記載されていて、職員は毎月会議の前に唱和している。職員は利用者の為を思う「毎日笑顔」や「美化チェック」など具体的な個々の目標を立てている。常にメモ書きを携帯して確認し、本人と管理者が評価している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の盆踊り大会での露店出店や氏子総代会主催のお日待ち行事で休憩所として協力をさせて頂いたり、地区の春祭りや地域防災訓練に参加させていただいております。	1階のデイサービスの場所を地域交流の場として提供し、認知症や介護について等の講習をしている。馴染みになった住民が祭り等の施設行事に協力している。散歩や近くのスーパーなどに買い物に行くときと出会った人と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区のどぶ掃除を地域の方々と時期を合わせ行っています。また、近くの職場体験場としての受け入れも行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月第2木曜日に運営推進会議の定期開催をし、活動報告を行い地域の悩み等を一緒に解決するよう話し合いを行っております。	自治会長・民生委員・氏子代表・地域包括支援センター職員の参加があって定期開催をしている。事業所からの活動報告の後、自治会他参加者からの報告があって協議をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員や民生委員に参加していただくことで連携しています。	管理者は月1回地域包括支援センターへ出向いて連携をとっている。月1回市介護相談員が来所している。市や包括からの研修案内が届くとケアマネジャーが参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をすると共に、身体拘束廃止委員会を設置。その取り組みとしてチーム会議内研修で取り上げるようにしています。居室の施錠については利用者の判断に委ねています。	3ヶ月に1度「身体拘束等適正化検討委員会」を開き、議事録をチーム会議で開示して全職員がサインしている。年2回身体拘束・虐待の研修を行い、職員は理解している。拘束のグレーゾーンについて職員間で話し合い、適切なケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルを作成し常に注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については年間研修カリキュラムのなかで学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には重要事項説明書等を用いて御説明・ご質問の時間を用意しご理解・納得をいただいてから署名・捺印をお願いしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、利用者アンケートを通し、ご意見聴取し対応検討を図っています。職員間では申し送りノートや朝礼、昼礼、カンファレンス、チーム会議にて情報の共有・対応に努めています。	法人の家族アンケートに意見や要望を記入してもらっている。ハード面で難しいことは納得してもらえよう説明し、できることは検討して反映させている。面会時に様子を伝え話し易い雰囲気を作って意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のチーム会議等で意見を確認したり、個別面談で話を聞いて反映しています。	職員はチーム会議や日常的に意見を言っている。「ADLが落ちてきてケアの仕方がこのままでいいの？」等の意見に皆で話し合っ、出た意見は申し送りノートに記録し、共有して皆で同じ対応をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度ごとに個人目標を設定し半期ごとに評価面談をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修プログラムに基づきステップアップ方式の社内研修に臨んでいる。社外研修に関しては情報の提供をし個人の希望も募っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会への出席や外部研修会場での交流を図っている。空き情報の共有も同時に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に事前訪問を行い、ご本人のご要望を聞き取り、お試し利用をしていただきお客様が満足していただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お問い合わせ時や入居前の訪問時にご要望をお伺いすると共にお試し期間中のご様子をお伝えし望ましい対応について話し合い決めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは寄り添い傾聴し情報を職員間で共有できるよう努めると共に、併設のデイサービスでのカルチャー教室や合同イベントに参加できる場の提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物を一緒に干したり調理を手伝っていただき、日常生活全般を一緒に行うようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個々の生活歴や日々の語らい、ご家族との会話の中から拾い上げていきケアへと結びつけていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる方にまた来ていただけるようにサポートして対応しています。ふれあい祭りや地域行事への参加を通じて交流の機会を工夫しています。	友人や自宅の近所の方が訪ねて来ている。職員は会話の中に一緒に入ったり、居室でゆっくりしてもらえるよう接待をして、来所継続の依頼をしている。デイサービスの手芸教室や華道教室に行って趣味の継続が出来るよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関わり合いの機会を増やせるようフロアでの座席位置の配慮や月に一度以上の外出に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事等へのご招待・御連絡をさせていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り寄り添い、会話を傾聴しご要望に沿えるようチームコミュニケーションを円滑に保てるよう努めています。	日常の会話の中から思いや要望を聞けることがある。新聞のチラシやテレビを見て出る言葉を拾い、記録に残して職員で共有している。発語が困難な人の顔つきや表情の変化を読み取り、声掛けして把握するようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や日々の語らい、ご家族との会話の中から拾い上げていきケアへと結びつけていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の個別対応表を基にお客様の特徴を捉え職員が統一できる介護を重視している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月チーム会議を行いカンファレンスの中で意見やアイデアを出し介護計画に反映できるように努めている。	サービス担当者会議で出た家族や職員からの意見をまとめたことを基に誰が見ても解りやすい個別対応表を作成している。又、意見が出ることがあれば検討して変更し、ケアマネジャーが介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を用い職員間で情報を共有し、計画についてチーム会議で話し合い見直しや実践に繋げている。現在は毎日のプランの実施状況も記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や理美容の手配、併設施設のデイサービスのカルチャー教室、イベントへの参加取り組みを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣店舗での買い物や、近所へのお散歩時のご挨拶を心掛け、地域行事への積極的参加に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携は取れています。ご家族の意向によっては勤務外の職員が通院の介助も行っている。	協力医は月2回往診があり、24時間オンコールで対応してくれる。歯科を含む他科受診は家族が対応をしている。家族が行けない時、職員が1時間1,070円の有料で対応している。歩行が困難な人に訪問歯科が来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医との連携を密にし指示をいただいています。併設デイサービスの看護職員がすぐに対応・支援できる体制もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員との情報交換を行い、退院後の処置や対応に関して主治医に相談し決めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対応に関しできる事とできない事について説明を行っている。状態の変化があった際にはその後の望ましい対応について話し合っています。	入居時に法人の指針を説明し、同意書を取り交わしている。状態が悪化した時家族の意向の再確認をしている。医師・訪問看護師からの説明を家族と聞き、今後の方針を決めるようにしている。家族が頻繁に訪れて来て、医療連携の下、管理者・職員は最期まで支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常時・緊急時対応マニュアルを有し、チーム内研修を通じて対応の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを基に研修を行い、災害想定避難訓練・事業継続計画の訓練を行っている。	6月と11月に年2回訓練をしていて、6月には消防署が来所している。地域防災訓練で自治会役員・住民が施設に来て利用者の避難に関わってくれ、地域と協力関係を築いている。夜間緊急連絡網訓練は行っているが、夜間想定訓練は未実施である。	何時起こるか解らない災害に更なる地域との協力体制作りや夜間想定訓練の実施に取り組むことに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇はチーム内研修での実施や個別マナー研修にて取り組んでいます。	職員は1対1の実技研修やベテラン職員の指導の下、尊重した丁寧な対応をしている。声掛けや会話の中に感謝の言葉を添えて、笑顔で接している。様子を見て1人で過ごしたい気持ちを察し、居室にいる時間を見守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中の勤務を厚くし、お散歩や買い物のご希望に添えるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り寄り添い対話をしている。ご希望に応じ、外出・気分転換できるよう勤務配置に心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はすべて個人の持ち込みとし、更衣時には服を選んでいただいている。理美容を利用できる日を月に一度設け、希望に合わせ対応させていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も共に席に座り同じ食事を摂り、片付けもお客様と協働しています。	2時間前から利用者と一緒に食事の支度を始め、調理過程や匂いを感じてもらい美味しく食べられるよう支援している。チラシを見て出る言葉や希望を聞いて昼食レクの献立にしている。月1回の外食は回転寿司や和食等に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては業者メニューによりバランスとカロリー管理をしている。水分に関しては摂取量を記録に残し把握するよう対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前には全てのお客様が口腔ケアをさせていただいてから就寝されている。日中はお声掛けし誘導・付き添い対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けにより定時の誘導や下着交換の際にもさりげなく行う様努めています。	夜間のみおむつ使用の人も日中はリハビリパンツで、トイレでの排泄を支援している。重度化してきても安易にオムツ使用にせず、職員同士声掛け合い、介助は羞恥心に配慮して、トイレでの排泄が継続できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や腹部マッサージ、水分摂取の声掛けをさせていただいています。服薬による調整も主治医に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご希望に添えるよう努めています。基本としては週に3回入浴できるよう声掛けにて確認し個別対応を実施している。	入浴を拒む人に無理強いせず、時間を変え、日を変えて様子を伺い声掛けの工夫をして週2~3回は入浴支援をしている。職員と信頼関係があって、特に同姓介助の要望はない。1対1の空間で会話を楽しみながら入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを把握し不眠時には付き添い、状況に応じて日中休息できるよう対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケアカンファレンスの際に服薬している薬の情報を共有しています。又、薬の変更が有った際は、薬名と理由、効能をノートに記し、チーム全員に周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人生活の中での役割が出来上がっている。職員も都度声掛けにより出番をつくり協働することに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中外出したいと思う気持ちを大事にし、その場で即座に応じられることを目標とし、日中の職員配置を心掛けている。又、月に1回は外食を行うようにし外出計画の話題を持つようにしています。	「散歩に行きたい」声を聞くと職員は仕事の段取りを変える等して近くの神社など30分くらい出かけている。気分転換に玄関の生花(華道教室で活かした大作)を見に行ったり駐車場に出て外気浴をしている。外出レクでは季節ごとに車でドライブに出かけ、月1回は外食に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	他のお客様とのトラブルを避ける為、基本は事業所管理としていますがお客様のご要望があればご家族の了承のもとお客様管理のお財布も持てるよう対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了承が得られればご本人自ら電話をしたり手紙でのやり取りができるように努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の生活空間は家庭的な設備や物品としてご利用者の馴染みややすい空間を心掛けている。	照明はオレンジ系の色にして、食事が美味しく見られる工夫をしている。机・椅子・家具全体が落ち着いた大人の雰囲気になっている。畳のスペースに布団を敷いて利用者が生活音を感じながら横になっている。お雛様を飾り季節を感じている。明るく清潔な空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の生活空間にソファを配置し独りになれたり気の合う方と話せる空間作りに努めています。和室も自由にご利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に「出来る限り使い慣れたものを」とお願いしており、ご本人が落ち着ける環境になるようご本人・ご家族と相談させていただいています。	入居時に家族がレイアウトをしている。転倒などの危険防止のアドバイスをして安全に過ごせるよう設えている。馴染みの筆筒や椅子を持ち込み、ハンガーレールに洋服・レクで作った作品・写真などを吊るしてその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設け、お客様の安全を確保すると共に自由に往来できるようにしています。トイレ内や浴室内等の細部にも工夫をしています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害対策に於いて、年2回お客様・全職員による訓練を行っているが、夜間想定は行っていなかった。	夜勤者1名で行える訓練を実施してみる	* 夜間の緊急連絡網を説明なしで実施する。 * 夜勤者1名での災害時の行動をチーム会議で纏め、日程を確保し日中に訓練実施をする。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。